

(7) 2～5歳児

3・4・5歳児 実践事例

裏山で水遊びをしよう (5月)

観点 (興味・関心)

視点 (探究心 ～どうしてかな～)

【遊びの経過】

水遊びが大好きな子どもたちは、用水路での遊びを楽しんでいる。地域の人の協力で裏山に水が流れる設備ができた。いつもの違いに気付いた子どもたちは、興味をもって裏山に行き、最初は戸惑っていたが、自分なりの遊びを展開し始めた。

【ねらい】

(3歳) 身近な自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもって遊びを楽しむ。
(4、5歳) 身近な自然に興味や関心を持ち遊ぶ中で、新しい環境へのかかわり方や遊び方を工夫して楽しむ。

【評価】

(3歳) 水の感触を楽しむとともに、水の流れる発見や驚きを感じながら水路での遊びを楽しんでいる。
(4、5歳) 水路に物を流したり、水の流し方を考えたりして、工夫して遊ぶことを楽しんでいる。

【○幼児の活動 ★環境の構成 ■保育者の援助】

★裏山の水路からビニールの筒を通して園庭に水が流れるようにしておく。

○裏山に行き、水の流れるに興味をもって遊び始める。



花を入れてみようや。

【発見】【探究心】

入ったよ。あっ、流れてきた。

【気付き】【満足感】

こんな方法もあるよ。【試行錯誤】

- 地域の方々にお世話になってできた遊び場であることを伝え、感謝の気持ちをもてるようにする。
- どのような反応をして遊びに取り組むのかじっくり観察し、子どもの気付きや驚きに共感する。



水を止めよう。
【挑戦】

面白いなあ。

【夢中】
【満足感】

急に水が流れてきたよ。

【発見】

- 遊びの中で子どもたちが何を必要としているかを見取り、声をかけたり、必要な物を一緒に準備したりする。
- 気付きを言葉にする子どもに共感したり、気付きをまわりの子どもへ紹介したり広げたりする。
- 保育者も一緒に遊びに参加し、楽しさを分かち合う。

○水の遊びを工夫する。

ここから石を入れたら流れるかな。
【探究心】



大丈夫、流れそう。
【予想】

プールにお水が入るよ。
【意欲】【満足感】



お水、ぬるいよ。
【気付き】【遊びの共有】

- 楽しいという気持ちが膨らむよう、子どもたちの気持ちに共感する。
- 水に対して興味をもち、子どもたちが自分で考えた遊びが十分楽しめるよう、安全に配慮しながら見守る。
- また遊びたいという気持ちをもち、次回はどんなことをしようかと考えられるような環境にするため、子どものつぶやきや様子を見逃さないようにする。



カエルになったよ。
【表現】【満足感】

楽しいなあ。また、しような。
【満足感】【達成感】

【考察】

子どもの動きに合わせて形を変える水は、子どもたちにとって大変魅力的な遊びの素材であり、子どもたちは様々な発見や気付きを楽しんでいた。遊びの主体として水にかかわり、「ものを流す」「流れを止める」「一気に流す」などの遊びに夢中になり、自分のイメージに向かって思考したり、試行錯誤したりすることができた。今後も、子どもたち自らが自然素材にかかわり、身体や五感を使った経験を通して、自分で考え工夫して遊びこみ、遊びきることができるよう地域を自然環境を生かした保育を行っていきたい。

2・3・4・5歳児 実践事例 第4回わくわくデー「作って遊ぼう てるてる坊主」(6月)
 観点 (人とのかかわり) 視点 (協同性 ~いっしょにやろうよ~)

【遊びの経過】

いろいろな人とかかわる喜びを味わってほしいと、異年齢のグループ活動をしている。ペアを決め、ふれあい遊びや伝承遊びなどを通し、少しずつ声をかけ合って遊ぶ姿が見られるようになってきた。誕生会の縦割りグループ発表のときに使いたいという声をもとに、青グループでは曲のイメージに合わせて、てるてる坊主を製作することになった。

【ねらい】

- (2歳) 異年齢児と一緒に安心して製作することを楽しむ。
- (3歳) 異年齢児と会話しながら製作することを楽しむ。
- (4歳) 友達と一緒に協力して製作することを楽しむ。
- (5歳) 異年齢児に作り方を知らせながら、みんなで製作する楽しさを味わう。

【評価】

- (2歳) 異年齢児の様子を見て、真似ながら一緒に製作することを楽しんでいる。
- (3歳) わからないことを聞いたり、真似たりしながら一緒に活動することを楽しんでいる。
- (4歳) 異年齢児に声をかけながら、協力しててるてる坊主を作ることを楽しんでいる。
- (5歳) 年下の子の様子を見守ったり作り方を知らせたりしながら、てるてる坊主を協力して完成させることを楽しんでいる。

【○幼児の活動

★環境の構成

■保育者の援助】

★てるてる坊主の製作に必要なものを並べておく。

○年長児たちがリードしながらてるてる坊主を製作する。



手伝って。【要求】
【人とのかかわり】

見せて。
ぼくがやってあげるよ。
【意欲】【思いやり】

これはどうやってするの。
【疑問】【思考錯誤】



シールが
はがれないな。
【葛藤】

こうやってするんだよ。
見ててね。【自信】【提案】

友達のをまねして
やってみよう。
【挑戦】【意欲】

シールはどうやって
貼ればいいのか。
【疑問】

すごい。できたぞ。
【達成感】



■年長児が見通しをもって活動をリードすることができるように、ナイロン袋、シール、モールなどを順番に並べておく。

■4月からの固定のペアで座り、安心した気持ちで互いに協力しながら製作に向かえるようにする。

■年中・年少児が作りやすいように年長児が「こうするんだよ。」と声をかけているところや、互いできているかを確認し合っているペアをほめることで、協力しながら製作を進めることができるようにする。

■模様のつけ方などを工夫して作っている様子を認め、「世界にひとつの自分だけのてるてる坊主ができたね。」などとそれぞれのアイデアを友達に伝え、自信につながるようにしていく。

■作ったてるてる坊主を身に付けて遊戯室のステージで踊ってみよう誘い、最後まで一緒に製作しようという意欲につながるようにする。

【考察】

2歳児や3歳児にとっては細かい作業で数多くの工程があるが、5歳児にとっては今までの経験から見通しの立ちやすい活動を設定し、教え合いながら製作できるようにした。ペアを基本にして、教え合いながら進めることにより、完成を一緒に喜ぶ姿が見られた。また、子どもたちは誕生会を成功させたいという共通の目標へ向かう気持ちが高まり、意欲的な活動となった。ペアと一緒に製作を進める中で次第に安心感が生まれ、5歳児には、責任感も芽生えたようである。今後も友達とつながる楽しさや年齢の異なる友達と協力する喜びを感じられる遊びを多く取り入れたい。